

川崎市への要望書

川崎市重症心身障害児(者)を守る会
2010年7月27日

○重症心身障害児施設の拡充をお願いします。加えて、南・中部地区に対象施設を作ってください。

「ソレイユ川崎」が開所して5年になります。しかし、そのソレイユ川崎も満床で受け入れ枠がありません。親が高齢になり在宅での介護が難しくなった時に現在、在宅にいる方が川崎市に入所できる施設はありません。

南・中部地区にも重症児が利用できる重症心身障害児施設を作ってください。

○緊急一時入所のベッド数の確保と短期入所施設の拡充及びベッド数の増床をお願いします。

緊急枠の確保やベッド数の拡充の阻害要因となっている看護体制の整備、介護職員の増員及び必要予算の増額をお願いします。

川崎市の障害者福祉の手引き「ふ

れあい」には「ソレイユ川崎」の短期入所ベッド数は20床となっており、5年間一度もその実績はありません。緊急枠の確保とともに20床稼働すれば必要な時に利用しやすくなり、介助者の負担もかなり軽減されると思われます。介助者に『もしもの事』があった場合を考えると、緊急一時入所は特になくはならない重要な命綱であることを理解して下さい。

○呼吸器管理が必要な「超重症児」も利用できる日中一時支援を創設して下さい。

横浜市ではすでに数年前から医療機関と連携し、介護者や家族が疲労回復をはかるときや、介護者や家族が病気・事故・出産又は冠婚葬祭等の理由で、障害児・者の介護を行えなくなったときに、障害児・者が一時的に施設や病院に入所したり、日

中のうちの数時間を施設や病院で過ごす事業を始めています。早期に支援体制を作ってください。

○養護学校卒業後の進路先に医療的ケアが必要な障害者が通える通園事業を十分に確保して下さい。

川崎市は南北に長く、南・中・北部と大きく分けられますが「ソレイユ川崎」は北部に位置しています。北部地区に在住の重症児は「ソレイユ川崎」の通園に通うことができず、養護学校卒業後、医療的ケアを必要とする南・中部の重症児は行き場がなく訪問看護やヘルパーを利用しながらの自宅での生活を余儀なくされています。住んでいる場所によつて進路先がある地区と、ない地区があるのは大変不公平感があります。至急、善処下さい。

○障害児の相談支援が受けられるよう各区に24時間対応の基幹型相談支援事業を整備して下さい。また、その方が生涯を通して相談支援が受けられる仕組みとして下さい。

具体的な支援が必要な時に学校や療育センターと連携し、対応できる

相談支援が必要です。24時間365日対応できる相談支援事業を強く要望します。

○障害児の身体介護要件に体重制限をつけないで、入浴や通院にヘルパーの介助を認めて下さい。

児童への居宅派遣について、福祉事務所に申請した段階で、子どもの体重要件（20kg以上）を満たさないだけで認められないケースもあります。しかし、多くの場合、重い障害により、身体が湾曲したり、強い緊張や脱力があることがあり、抱きづらく注意が必要です。そのため、体重が20kg未満でも介助者の腰痛や転倒等の事故が常態化しています。重い障害児に対し単純に物の重さを推し量るような要件で介護度を判断することに疑問を持ちます。介助が重要な現場を精査していただき、体重制限を撤廃しヘルパー派遣を認めて下さい。

川崎市障害者在宅施策検討専門部会

この部会は、川崎市心身障害者手当の見直し「心身障害者手当あり方検討専門部会」の検討結果（県の在宅手当と同様な見直し案）を受けて、新たな在宅施策（障害者を地域で支えるための）の政策転換について、第3次ノーマライゼーションプランの基本理念や計画推進の方向性を踏まえて話しあっている。（平成23年2月に川崎市障害者施策推進協議会に検討報告する予定）

第1回（6月1日）

委員紹介および部会長選出のあと、事務局から新たな在宅福祉施策の基本理念と重点施策（案）の説明がありました。

【基本理念】「地域生活のあんしんを支える共生社会の実現」

【重点施策】

①在宅生活を支える地域づくり

住み慣れた地域で介護者の高齢化や親亡き後も安心して在宅生活を継続していくためには、障害者を地域で支えるためのネットワークづくりや、その中核となる相談支援機能の充実を推進します。

「推進項目」・相談支援システムの充実

- ・地域の見守りネットワークの構築
- ・緊急時や災害時の支援体制の整備

②重度化や高齢化に対応したすまい

地域での生活の基盤となるすまいについては、障害の状況に応じたハード面の整備とともに手厚い介護や医療的ケアを提供するための支援体制の充実を推進します。

「推進項目」・重度および高齢障害者対応型ケアホームの整備

- ・医療的ケアへの対応と地域医療との連携
- ・障害特性に応じた住環境の整備

③自立生活と社会参加のきめ細やかな支援

地域社会での自立した生活の確保や社会参加の保障のため、利用しやすい移動や外出の支援、必要なときに必要な医療を安心して受けられるための仕組みづくりと医療機関の障害への理解、障害特性に応じた個別の需要へのきめ細やかな対応について推進します。

「推進項目」・個々のニーズに対応した移動や外出の支援

- ・医療機関の体制整備と障害への理解の促進
- ・日常生活用具の拡充

説明の後意見交換があった。（和田正義）

明日香のたまてばこ



みなさん、今日は。9月に入りましたが、まだまだ暑い日が続いてますね。私も、いい加減にして欲しいというのが本音です。冬が突然やって来るといふ噂もあり、急な気温変化に体がついていけない私は、一番最悪なパターンでがっかりしています。やっと体が落ち着いて来たかなあと思っていたんですが……。

今年も、8月後半に父さん&母さん、そして叔母さんと上高地&高山へ行って来ました。夏は毎年旅行へ行くのが恒例になっており、今年も、車椅子で大丈夫そうな宿を探しました。大分増えては来ましたが、自然を満喫できる場所になると限られて来てしまうんですね。結局、一泊目は上高地、二泊目は高山へ行く事になりました。もちろん、電動も積んで。

出発当日、父さんがいつもごとく出来るだけ早く出発したいとの事。朝ケアーを断っていました。ですが、出発できたのは9時前。何だよおー、これじゃ30分、起こしてもらっただけでも入って貰えば良かったと、ちよつと後悔。今度からは絶対に入ってもらおうと。上高地へ入るには

マイカー規制の為、松本警察へより通行許可証を出してもらわなければ、マイカーで入れません。ちよつと大変ですが、自然の中に入れてもらおう訳ですから、当然ですよ。入れてもらえるだけで、とてもありがたいです。

警察に到着したのはお昼過ぎ。許可証を出して頂きトイレを貸して頂いて、上高地へ向けて出発！一番気になるのがトイレ。長野は車椅子トイレが割りと沢山あります。ですが、時間も限られている為、何かの用事でとまりそこに車椅子トイレがあれば、必ず行く。これが鉄則です。

上高地に到着！天気も良く、とても気持ち良かったです。が、いつもより暑かったです。やっぱり、今年は異常気象なのかなあ。と言っても、こちらよりかは全然涼しいですけどね。電動で河童橋の付近を、自由に走り回る。とても気持ち良い。やっぱり、電動は良いなあ。 続きは、また来月。

鈴木明日香

編集後記

障がい児の子育て支援ムックができましたよ！オレンジ色の表紙、カラー写真もたくさん入ってきれいで読みやすいと早くも評判に。このムックのルーツは、療ねの元「在宅療育を考える会」で13年前に作った「こんなときどうすればいいの」です。平木さんから「お母さんたちには、福祉の情報も届いていないのよ」といわれ、小さなパンフレットを作ったところ、すぐに売り切れ。その後、NPOになった時と、7年前支援費制度が始まった時と、改訂版を出しました。次に作るときは、療ねだけでなく市内の支援者で集まって作りたいとずっと思ってきました。「豊かな地域療育を考える会」ができ、チャンス到来。わにの会の新井さんを中心にみんなが集まり、考えつく限りのところに取材し、堤さんというプロの編集者がすばらしいものにまとめてくれました。子育て中のお母さんだけでなく、高校生とか幅広い人にも読んでほしいものです。ある職員は、家族に見せて「私は、こんな仕事をしてるのよ」と自慢したとか…。そんな使い方もあるんだね。

(谷)

療ね 事務局便り

夏の家、皆さんのご協力により、楽しく終わることができました。ありがとうございました。

8月は事務局会議がお休みだったので、会議の報告はありませんがケアホームのお話しをほんの少ししたいと思います。こんど、入居者とのお食事会があるそうです。入居者・スタッフとの顔合わせ、交流会といったところでしょうか。いよいよといった感じがします。

川崎市内で初ですよ！ 第一歩をふみだすことはとても大きいです。次へつなげる第一歩ですから!! 9月の事務局会議で、ケアホーム設備充実のための募金が具現化すると思います。

さよなら夏の家…

今年の夏の家、スタッフはフォーローに回り、ボランティアに主でかわっていただきました。若者はやはり若者同士なのです。とてもよい関係性ができ上がっていました。とても残念なんです。「夏の家」は、今年で終わりにします。来年からどうするか。みんなで一緒に考えませんか？やるかやらないか、やるとしたらどんな形で。親睦会的なものにするか、夏休みに困っている人にするか…

11月17日(水)に「検討する会」開催します。皆さん奮ってご参加ください。場所は次回の会報でお知らせします。

自分たちで施設作りを

・総会でお話させていただきましたが、自宅空きテナントを利用して日中活動の場所を作りたいと考えています。興味、関心のある方、一度現場を見て下さい。10月5日(火)10時30分 麻生区東百合ヶ丘2・40・11 松澤 ☎044-955-8111

GDP川崎のグランドデザインを考える会

第1回の世話人の集まりを始めます。これから、GDPとしてどんな活動をしていくか、話しあいます。関心のある方はどうぞいらしてください。

時・9月27日(月) 19時
場所・溝口ノクテイ1階喫茶店
コンコルドの予定

厚生労働省 平成22年度障害総合福祉推進事業

「医療ニーズの高い障害者等への支援策に関する調査」のアンケート作りに協力中です。

・医療的ケアのある児童の介護者が、訪問看護師やヘルパーのサポートがどうあれば、安心して子どもを託して外出できるかという調査です。

検討会の場で、川崎から参加した大師の訪問看護師さんから、『川崎

市の場合は、児童への派遣はそもそも家族がいることが前提で、しかも短時間のヘルパー派遣しか認められていない』との現状報告が。 Rond でも、川崎市での児童への派遣の厳しさは、いつも問題になっています。そこで、時間の限定は川崎市だけなのかどうか、横浜市の事業所に聞いてみました。すると、横浜市は上限が3時間。家族がいなくても派遣可能(そもそもそのためにヘルパーがいるのですよ)。移動支援が幼児でも出るので、2時間程度の散歩も組み合わせると5時間ほど家族が外出することも可能だということでした。

障害の重い子どもたちへの支援が切り開かれることにつながるよう、検討委員会に参加していきます。

(谷)

秋山恵子さん

いつから Rond に…去年からです。それまでも3年ほど、夏の家のボランティアをしていました。お仕事で入ったのは、去年からです。（秋山さんは、施設の看護師さんを定年まで続けてこられた方です）

どんなお仕事を…入浴介助にヘルパーとして週2回ほど行っています。その他に、幼児さんのまんぼうで、医療的ケアの対応をしたり、土曜クラブのサポートをしています。

Rond はどうですか…とっても楽しいです。子どもたちは孫みたいだし、土曜クラブの人たちも含めて、皆さまから若さをもらっています。

この夏はどうでした…夏の家に3回とも全部参加しました。

趣味では、9月から中山道めぐりを始めました。



大場真弓さん

いつから Rond に…いつごろでしたかねえ。けっこう古いですよ。（9年前と判明）

きっかけは、小久保先生と一緒に働きたかったんです。息子が皆さんにたいへんお世話になったので、ご恩返しです。

Rond はどうですか…良い仲間に出会えました。特に八重子（福田）さんとお仕事できたことが一番の収穫でした。詰まっていたところで（詰まっていた原因は…谷をジロリ）八重子さんと一緒のところまでサポートする中で、立ち直れました。

この夏はどうでした…担当していた子が夏の家に行けて、私も夜まで付いて行ったら、皆さんがとても温かく迎えてくれて。その子も楽しく過ごせたというのを聞いて、嬉しかったです。



美濃口裕さん

いつから Rond に…今年の3月からです。

障がい児者に関わる仕事を探していたところ、募集広告をたまたま見つけて。

それと、福祉相談会に参加して、Rond の美女、好青年たちと話せたことが大きかった。

どんなお仕事を…まんぼう（小学生を対象とした日中一時支援）の仕事をしています。

こんなに体張って仕事したの初めて（笑）

Rond はどうですか…何か親しみ感じるんだよね。子どもの頃、家が貧乏でバラックに住んでいたからかな（失礼！）冗談はさておいて、Rond はいろんな違いを持った大勢の人達を受け入れてくれる、とっても懐の深い場だと思います。

この夏はどうでした…今年の夏は、よく乗りきれた！（笑）子どもたちと沢山遊んでもらって楽しかった～！



並木尚美さん

いつから Rond に…去年の10月からです。Rond でヘルパーをしているお友だちの紹介です。

どんなお仕事を…小学生のまんぼうと土曜クラブで、サポートしています。フルーツとピアノの演奏もしています。

Rond はどうですか…すごくたのしいです。何がいかって、他人様のお子さんの世話を焼き、抱っこも身体的なかかわりもたっぷりできて、それで喜んでもらえて、子どもにこんなにべったり関わられるなんて、夢みたい。

この夏はどうでした…初めての夏休み体験です。まんぼうの子どもたちのお食事介助が何回もできたこと。また一歩深いおつきあいができました。



小林菩美さん

いつから Rond に…去年5月25日からです（即答です！）高齢者の介護の仕事をやっていたので、（どこか近くで）仕事がやりたいとおもっていたので…。

どんなお仕事を…重度訪問介護の人や、おもに身体障害の人のところに行っています。

やっぱり障害の人と関わってみたら、日々勉強になることが多いです。

Rond はどうですか…ヘルパーさんが多くて、みんなで協力し合って仕事ができるので、楽しいです。

この夏はどうでした…夏も変わらず、訪問介護の仕事をしていました。自分が病気になる限りは、生活を支えているので休めないです。

*菩美さんはネパールの方です。15年前に日本に来ました。ネパールでは小さい子に勉強を教えていました。



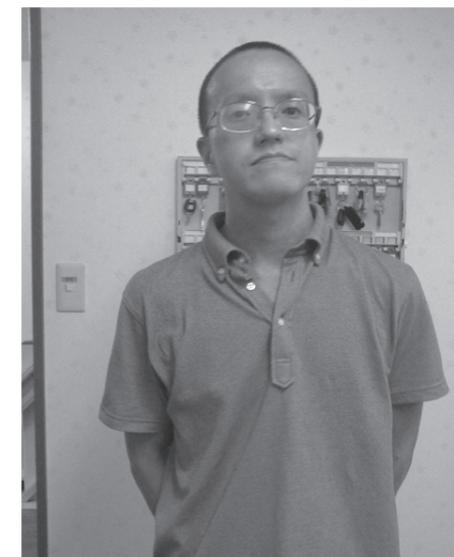
竹内章夫さん

いつから Rond に…去年の夏、インターネットで見た夏の家のボランティアに参加。その後、ヘルパーに誘われて Rond に入りました。

どんなお仕事を…土日の外出が中心です。今は、週何回か小学生のまんぼうにも入っています。楽しいです。これから、宿泊にも挑戦してみようかと思っています。

Rond はどうですか…にぎやかなところですね。いろんな人がいてすごいです。

この夏はどうでした…忙しかった！夏の家も2泊3日ABCのグループに全参加。まんぼうでプールに行ったりもしました。疲れたけれど貴重な体験ができました。とくに夏の家のCグループに行けてよかったです。



ヘルパーさん紹介